

連綿と受け継がれる西陣綜統(そうこう)業の技術を従業員承継で次代へ繋ぐ

《譲渡側》 亀井綜統株式会社（亀井剛氏 78歳）
《譲受側》 同社従業員（福田佐季氏 34歳）

事業承継支援までの経緯

▶亀井綜統株式会社は、剛氏の実父が綜統製作業として昭和24年に設立された事業所で、剛氏は昭和42年に就職して綜統の技術を修得、「ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞」（経済産業省）など数々の受賞に輝いてきたが、常に我が国の時代裂織機を支える技術を後世に受け継いでいかなければならない使命感を強く持っていた。
今回は、熱心に技術を修得してくれた従業員（生家が綜統業者であったが現在は廃業）に事業を譲渡するという決意は固まっているものの、どのような手順で進めて行けば良いのか、また経営者育成をどのようにすればよいのか分からないというご相談を当センターにお寄せ頂いたものです。



事業承継でこれからも活躍することになる織機たち

支援のポイント

事業の強みや課題、ビジネスモデルを細かくヒアリングした結果、今回のケースに最も有効な支援方法を選択した。
▶現代表から従業員への「事業承継計画書」を策定する。
▶外部登録専門家の派遣制度を活用する。
《事業承継に向けた課題》①複数人に分散した株式の後継者への移転②法人役員借入金の返済
《事業承継後の課題》①新事務所設立に向けた資金②技術者である後継者への経営スキルの伝達

事業承継計画書づくりに取り組んだ成果

- * 浮き彫りになった経営課題解決に向けた覚悟が鮮明になった。
- * 現経営者と後継者の信頼関係が深まった
- * 職人(技術者)の中に経営者(マネージャー)として具体的なイメージが出来てきた。



支援専門家から説明を受ける相談者：亀井氏(中央)と後継者の福田さん(右)

支援を受けた相談者の感想

【亀井剛社長】事業承継についていろいろと思いはありましたが、それをどのように具体化していくのが課題でした。今回、これを専門家目線で客観的に①代表者の交代、②株式の移転③社屋の移転・建築計画の実行、会社のキャッシュフロー、継承者のお金の流れ等が時系列で具体的に示されたことによって、安心して事業承継を進めていける確信が持てるようになりました。後継者にとっても、疑心暗鬼になることなく安心して将来に備えることができるのではないかと思います。

【後継者の福田佐季さん】事業承継をどのように進めていくのか、知識が浅いため不安がありました。今回の事業承継計画書の策定支援では、事業承継に向けての具体的な進め方を打ち合わせや書面の中で分かり易くまとめて頂いたことで、今後の流れを明確にすることが出来ました。また、事業承継後の計画も数値化して目に見えるかたちでご提示いただけただことは、今後の経営への安心材料となりました。



バトンタッチに向けて堅い握手をする師弟



ひとこと

事業承継問題は「後継者難」ではありません。今回のご相談のように後継者は決まっている場合でも、承継の手順や諸手続き、問題点の整理、また承継後の経営課題の洗い出しと対策など、考えておかなければならない事柄は沢山あり、このような様々なテーマを個別具体的に分類し、その対応策をロードマップに纏める作業が「事業承継計画の策定」になります。今後は、この計画書に沿って同社の顧問税理士の伴走協力を得ながら一歩ずつバトンタッチと事業展開に向けて、取り組んで頂きたいと思っております。

京都府事業承継・引継ぎ支援センター
サブマネージャー 吾郷泰佑